

教育・研究等業績一覧

履 歴						
フリガナ	ムラカミ リョウイチ	所 属	農学ビジネス学科			
氏 名	村上 良 一	身 分	准教授			
学 歴						
年 月	事 項					
1986年3月	立命館大学 一部経済学部 経済学科 卒業 経済学士					
1987年4月	京都大学 経済学研究科 修士課程 入学					
1989年3月	京都大学 経済学研究科 修士課程 修了 経済学修士					
1989年4月	京都大学 経済学研究科 博士課程 (後期課程) 進学					
1995年3月	京都大学 経済学研究科 博士課程 (後期課程) 単位取得満期退学					
1995年4月	京都大学 経済学部 研修員					
1996年3月	京都大学 経済学部 研修員 修了					
職 歴						
年 月	事 項					
1992年4月	龍谷大学 経済学部 非常勤講師 (基礎ゼミナール担当)					
1995年4月	関西文理情報会計専門学校 非常勤講師 (国際経済論担当)					
1996年3月	龍谷大学 経済学部 非常勤講師 退職					
	関西文理情報会計専門学校 非常勤講師 退職					
1996年4月	拓殖大学北海道短期大学 農業経済科 専任講師 採用					
1999年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 (学科改組転換) 専任講師					
2004年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 助教授 昇格					
2007年4月	拓殖大学北海道短期大学 経営経済科 准教授 (職位名改称)					
2014年4月	拓殖大学北海道短期大学 農学ビジネス学科 (学科名称変更) 准教授 現在に至る					
教 育 業 績						
1 担当授業科目 (2022年度)						
科 目 名	出講場所	期別	曜日	時限	備 考	
国際農業論	101 教室	後期	金	4	環境農学コース	
食品・農産物流通論	302 教室	後期	火	5	環境農学コース	
農業経営概論	103 教室	後期	火	1	環境農学コース	
食農社会論	302 教室	前期	木	2	環境農学コース	
グリーン・ツーリズム論	302 教室	後期	月	2	環境農学コース	
国際農業論	101 教室	後期	金	4	地域振興ビジネスコース	
現代企業論	302 教室	前期	火	1	地域振興ビジネスコース	
食品・農産物流通論	302 教室	後期	火	5	地域振興ビジネスコース	
食農社会論	302 教室	前期	木	2	地域振興ビジネスコース	
グリーン・ツーリズム論	302 教室	後期	月	2	地域振興ビジネスコース	
ビジネス実務演習Ⅰ	205 教室	前期	月	4	地域振興ビジネスコース	
ビジネス実務演習Ⅱ	205 教室	後期	金	2	地域振興ビジネスコース	
キャリアスキル	203 教室	前期	月	2	地域振興ビジネスコース	
1年ゼミナール	203 教室	前・後期	木	4	地域振興ビジネスコース	
地域プロジェクト	103 教室	前・後期	木	5	地域振興ビジネスコース	
2年ゼミナール	204 教室	前・後期	木	3	地域振興ビジネスコース	
卒論演習	研究室他	前・後期	不定	不定	地域振興ビジネスコース	
地域特別演習	202 教室他	後期	木	5	地域振興ビジネスコース	

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>[授業の目標]</p> <p>基礎的な概念を平易に解説することを第一の目的としている。第二には、現実感覚を持って学べるようにするため、新聞記事や動画、海外視察時の画像、Webサイト上の資料などを活用し世界と日本で今どんなことが焦点になっているかを伝えるよう努力している。</p> <p>第三には、実学的な要素もとりいれつつ、これからの社会人としてふさわしい知識、思考力を身につけられるような講義を目指している。</p> <p>第四に技術的な指導として、可能な限り、基礎的な文章作成能力向上を図るため、レポート課題を課している。</p> <p>[効果・自己評価] 動画は概ね好評である。動画視聴の要旨をレポート課題とすることもあるため、さらに集中して視聴する刺激となっているようである。</p>														
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>・[要望]主な改善希望意見は、最新データの紹介、レポート重視の評価への変更、引き込まれるような話し方への工夫など。</p> <p>・好評であったのは、毎年のことではあるが、動画視聴である。</p> <p>・事前に授業スライド等資料をアップしていたことも評価している受講生がいた。</p> <p>改善の取り組みの結果</p> <p>・動画視聴が好評なので。レポート課題として以外にも視聴する機会を増やした結果、やはり好評であった。</p> <p>改善に向けた今後の取り組み方針</p> <p>・動画は毎年好評であるので継続したい。</p> <p>・感染症が収まれば、講義室内でも学生同士の意見交換の時間を設けたい。</p> <p>・次年度は数回程度のレポートをもって評価対象とするので、振り返りとなるようなテーマを設定し文章表現力向上の機会を増やしていきたい。</p>														
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>・1998年発行『アグリビジネス論』(中野一新編・有斐閣)の共著者として参加。</p> <p>・2004年発行『現代の食とアグリビジネス』(大塚茂・松原豊彦編・有斐閣)の共著者として参加</p> <p>・2021年発行『アグリビジネスと現代社会』(冬木勝仁・岩佐和幸・関根佳恵編・筑波書房)の共著者として参加。</p> <p>・教材は、毎授業時に、講義の要点を記したスライドの映写やレジメを中心的には使用するとともに、学生の関心を喚起するため、参考映像資料を用いた講義を積極的に心がけている。</p>														
<p>5 学生の指導(課外活動・厚生補導等)</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1996年度～1997年度</td> <td>バドミントン部顧問</td> </tr> <tr> <td>1997年度</td> <td>処分学生への指導・援助(反省文・課題文添削・面談・訪問)</td> </tr> <tr> <td>2001年度</td> <td>経営経済科 1年生特別講座 講師</td> </tr> <tr> <td>2002年度</td> <td>学生委員</td> </tr> <tr> <td>2003年度</td> <td>学生委員・ローターアクトクラブ顧問</td> </tr> <tr> <td>2005年度</td> <td>フットサル部公式試合引率(9月)</td> </tr> <tr> <td>2017年度～</td> <td>福祉サークルかたつむり部顧問</td> </tr> </table>	1996年度～1997年度	バドミントン部顧問	1997年度	処分学生への指導・援助(反省文・課題文添削・面談・訪問)	2001年度	経営経済科 1年生特別講座 講師	2002年度	学生委員	2003年度	学生委員・ローターアクトクラブ顧問	2005年度	フットサル部公式試合引率(9月)	2017年度～	福祉サークルかたつむり部顧問
1996年度～1997年度	バドミントン部顧問														
1997年度	処分学生への指導・援助(反省文・課題文添削・面談・訪問)														
2001年度	経営経済科 1年生特別講座 講師														
2002年度	学生委員														
2003年度	学生委員・ローターアクトクラブ顧問														
2005年度	フットサル部公式試合引率(9月)														
2017年度～	福祉サークルかたつむり部顧問														
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>1996年度～1997年度</td> <td>農業経済科 2年生 委託実習先訪問</td> </tr> <tr> <td>2002年度</td> <td>経営経済科 1年生地域デザインコース 実習先訪問</td> </tr> <tr> <td>2002年度</td> <td>経営経済科 1年生特別講座 司会・アンケート作成担当</td> </tr> <tr> <td>2012年度～2016年度</td> <td>環境農学科 2年生 委託実習先訪問</td> </tr> <tr> <td>2019年度</td> <td>東北・北海道地区一般教育研究会参加(於 弘前大学)</td> </tr> </table>	1996年度～1997年度	農業経済科 2年生 委託実習先訪問	2002年度	経営経済科 1年生地域デザインコース 実習先訪問	2002年度	経営経済科 1年生特別講座 司会・アンケート作成担当	2012年度～2016年度	環境農学科 2年生 委託実習先訪問	2019年度	東北・北海道地区一般教育研究会参加(於 弘前大学)				
1996年度～1997年度	農業経済科 2年生 委託実習先訪問														
2002年度	経営経済科 1年生地域デザインコース 実習先訪問														
2002年度	経営経済科 1年生特別講座 司会・アンケート作成担当														
2012年度～2016年度	環境農学科 2年生 委託実習先訪問														
2019年度	東北・北海道地区一般教育研究会参加(於 弘前大学)														
<p>研 究 業 績</p>															
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>[研究分野] 農業・食料供給システム論</p> <p>[研究活動] この研究分野における研究活動では、調査活動が大きな比重を占める。学会や研究グループによる調査・視察を行ってきた。海外における調査もアメリカ、ドイツ、イタリアの3カ国を訪問し、そこでの農業・食料生産の現状や政策効果などの聞き取り調査を行ってきた。このような国内外の農家・農業関連産業など農業・食料生産・流通の現場への調査活動の成果は、紀要等において発表してきている。また、共同研究も積極的に進めてきており、研究成果では、京都大学大学院所属の研究者をはじめとする国内外の研究者と共同し、文部省科研費の研究成果報告書や『アグリビジネス論』等で発表してきた。</p>														

2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	市場原理志向を特徴とする現下のグローバル経済下で、日本の農業と食料供給システムもまた大きな構造転換をとげつつある。この食料供給システムを研究対象に、第一にその階層の内部構造を解明すること、第二に階層間の相互関係を明らかにすること、しかる後に総体としての食料供給システムに対する国家・地方公共団体の政策や他の経済主体の影響を検証するという研究方法をもちいて、研究課題に取り組んでいく。 農業・食料生産活動は、日本の地域経済において今なお重要な存在である。この点から、今後の研究展開の方向性としては、持続性のある社会形成という視点から地域づくりの課題を農業・食料供給システム論の見地から解明を進めていきたいと考えている。
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 1996年度～1998年度 科学研究費補助金による共同研究「WTO体制移行下におけるアグロ・フード・システムと農政再編に関する国際比較研究」(課題番号 08303006) (2) 学内 (3) 学外
4 資格・特許等 (主要3件以内)	

著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要 約
(著書)				
アグリビジネス論	共著	1998年1月	有斐閣	pp. 217-221 第12章第2節「多国籍アグリビジネスの対日進出事例」において世界大で拡大深化を続ける多国籍アグリビジネスの対日進出事例について、配合飼料企業と外食企業を採りあげ分析した。
現代の食とアグリビジネス	共著	2004年5月	有斐閣	pp. 29-50、pp. 251-272 第2章「フードビジネスと現代の食」において、食の外部化を進めることができたアグリビジネス業界の内的要因、フードビジネスの構造変化、あるべき食の方向性について述べた。 第11章「食の安全と表示をどうするか」において、食の安全がアグリビジネス主導で進められた食システムによって脅かされてきたこと、食品安全行政の問題点、食の安全を再建するために必要なことについて述べた。
アグリビジネスと現代社会	共著	2021年9月	筑波書房	pp. 13-26 第1章「食の貧困と子どもの危機」において、食の貧困を量的・質的視点で考察、子どもの食の貧困化の実態、現場での改善の取り組み、食の貧困から脱却するための方向性について述べた。
(学術論文)				
加工型畜産と飼料メーカーの展開－1950年代～70年代を中心に－	単著	1992年6月	『経済論叢』第149巻第4・5・6合併号	1950年代～1970年代における加工型畜産形成において如何に飼料メーカーが積極的に関り、促進したのか述べた。
食肉自由化と食肉加工資本の展開－日本ハム株式会社を中心に－	単著	1993年12月	『龍谷大学経済学論集』第33巻第3号	日本ハムを対象として食肉加工資本が日本の食肉輸入自由化を契機として如何に事業拡大を果たしていったのかについて述べた。
食肉自由化と配合飼料メーカー	単著	1994年4月	『経済論叢』第153巻第3・4合併号	国内畜産業が食肉輸入自由化の下、「縮小するパイ」化しつつある下で、資材供給業である配合飼料メーカーが、事業提携等如何に生き残りを図りつつあるのかについて述べた。

ガット・ウルグアイ・ラウンドと日本の畜産業	単著	1994年10月	『京都大学経済論集』第9号	牛肉はガット・ウルグアイ・ラウンド農業協定締結前に輸入自由化が決められた。この牛肉生産農家の動向について述べた。
WTO体制下の農協経営	単著	1999年3月	平成8年度～平成10年度科研費研究成果報告書(08303006)	WTO協定締結によって、厳しくなった農家経営を反映して、農協経済事業の「収益」は悪化し多くの単協は同事業の赤字部門化を余儀なくされている。農協経営全体の収支均衡を図るため、一層「共済・信用」事業にシフトしていかざるを得ない実態を経営指標に関する統計を用いて明らかにした。
(翻訳)				
アグリビジネスと契約農業	共著	1992年4月	大月書店	pp. 241-253 第8章「政策立案をめざして」を翻訳した。この章では、政策立案者が契約農業制度の奨励や管理をするさいに考慮しなければならない諸要因が述べられている。
(その他)				
『京の旬』(京都ふるさとセンター編集・昭和堂)の書評	単著	2005年1月	『農業と経済』2005年1月号	『京の旬』の書評。地場野菜普及による地産地消の取り組みを評価する視点で評した。
食の安全をどう考えるか—食のグローバル化がもたらす現代の食情	単著	2005年5月	『資源環境対策』2005年5月号	多国籍アグリビジネスのグローバルな行動が食の安全に否定的な影響を与えている点について述べた。
マクドナルドは世界を食いつくすか?—逆風下のマクドナルド企業戦略の意味	単著	2006年3月	『農業と経済』2006年3月臨時増刊号	BSE騒動を受け牛肉忌避傾向が強まるという逆風に悩むマクドナルド社が採っている企業戦略の意味について述べた。
メジャーの戦略(1)穀物メジャー	単著	2006年11月	白桃書房	日本流通学会編著『現代流通事典』の1項目を担当。(p. 116)
『食品安全問題と法律・制度』(梶川千賀子著)の書評	単著	2014年3月	『フロンティア農業経済研究』第17巻第1号	『食品安全問題と法律・制度』の書評。注目が集まる食の安全をめぐる問題とその法律・制度解説が初学者にもわかりやすく叙述されている点を中心に評した。
『アグロフェュエル・ブーム下の米国エタノール産業と穀作農業の構造変化』(磯田宏著)の書評	単著	2017年2月	『フロンティア農業経済研究』第20巻第1号	『アグロフェュエル・ブーム下の米国エタノール産業と穀作農業の構造変化』の書評。資本主義による農業の包摂という視点から現代アメリカ農業とアグリビジネスの具体的な行動を対象に精緻な分析を行っている点を中心に評した。
『人新世の「資本論」』を手掛かりに農業食料問題を考える	単著	2021年3月	『立命館食科学研究』第3号	斎藤幸平著『人新世の「資本論」』をヒントに、今後の持続性ある農業・食料分野の形成について注力しなければならない点について述べた。

研究業績(過去3カ年分)

著作数	論文数	学会等発表数	その他	国際的活動の有無	社会的活動の有無
0	1	0	1	無	有

学内運営業績

1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	2004年度	入試広報委員副委員長
	2005年度～2006年度	入試広報委員長
	2007年度～2008年度	図書委員長
	2010年度～2015年度	図書委員長
	2019年度～2021年度	教務委員会
	2020年度～	自己点検・評価委員会 作業部会
	2020年度～	FD委員会
	2021年度	紀要編集委員会

学 外 活 動 業 績

1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通じた活動 （主要 10 件程度）	2000年4月～	深川市農業振興委員
	1999年4月～11月	北空知広域圏海外研修事業コーディネーター
	2010年8月～2011年3月	深川市都市再生整備計画評価委員
	2011年4月～2012年3月	深川市男女共同参画市民懇話会委員
	2014年4月～2020年3月	深川市男女共同参画社会市民推進委員会委員
	2020年4月～	深川市男女共同参画社会市民推進委員会委員委員長
	2015年5月～	北海道地域・自治体問題研究所理事
	2018年2月2日	下川町農業研修道場講座講師
	2019年2月5日	下川町農業研修道場講座講師
	2020年1月26日	旭川市農業センター「農業次世代人材投資事業」講師
	2021年8月24日	旭川地域青年農業者経営研修会講師
	2022年6月11日	深川市民講座にて講演
	2 学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）	1999年4月～2011年3月
2010年7月～2014年7月		日本農業市場学会監事
2011年3月～		北海道農業研究会幹事
2016年7月9日		北海道農業研究会定例研究会コメンター
2018年4月～		農業問題研究学会幹事